

令和2年4月1日

長与町議会

議長 山口 憲一郎

研修報告書

長与町議会議員研修要綱第7条の2の規定により、次のとおり公表します。

1. 研修名（主催者） 議会広報研修会（長崎県町村議会議長会）
 - (1) 「議会広報の基本と編集技術」
広報広聴理論と読者の行動・意識
 - (2) 広報紙クリニック
一般社団法人自治体広報広聴研究所 代表理事
広報アドバイザー・専門統計調査士
博士（公共政策学）
金井 茂樹氏
2. 研修日時 令和元年11月19日（火）13時00開会
3. 研修場所 長崎県建設総合会館（長崎市魚の町）
4. 研修目的 議員の資質向上に資するため
5. 所 見 （記載は議席番号順）

【八木 亮三 議員】

壱岐市と長崎8町の合同での、各議会の広報誌作成を担当する議員が出席しての実務研修でした。

前半の講演は議会広報のそもそもの役割・意義から読者の意識・行動、デザインの原則まで幅広い内容で、まず最初の「議会広報誌は、そもそも興味がない人に読んでもらおうとするもの」であり、そのためには「住民にとって役立つ情報を提供する」という意識をもって編集にあたるべき、という基本的な話に、確かにこれは漠然とではなく常に意識しておかないといけない大切なことだと思いました。

もちろん、議会および委員会が定例議会会期外にどのような活動をしているのかを広く知ってもらうことはとても大切ですが、例えば視察・研修などの報告をあまり専門的かつ冗長に書くことが果たして読者＝住民にとって必要で役立つのか、そのように客観的に考えながら編集していく必要はあると思います。

具体的な編集技術としての視線誘導、フォントの使い分けや統一、余白や色の使い方などは個人的にはある程度理解しているつもりでしたが、後半の議会報クリニックでの「みんなのギカイ」171号について具体的に挙げていただいた「不要な枠・罫線の多さ」「枠の中でさらに枠線を使う場合の太さ・色のチョイス」「左右のページの不揃い」などの要改善点の指摘はもっともなものばかりで、こちらも大変勉強になりましたので、次号以降に活かしていきたいと思います。

また、表などを複数パターン作成し、比較してよりよい方を採用するという方法は非常に有効だと感じましたので、今後積極的に行いたいと思います。

私は新人であり議会だより編集に携わってまだ半年、2冊だけですが、今回の研修を受けて、おそらくこれまでも合同で研修を受けてきているはずの他の市町の現在の議会だよりと比較しても、本町議会の議会だよりは研修で指導・解説された誌面デザインのルール（「各記事に写真を1枚はつけ、キャプションも必ず入れる」「見出しは大きく・簡潔・具体的に」「女性を想定したテイストは男性にも受け入れられやすい」等）を明らかにかなり忠実に取り入れて作られていると感じました。前期までの広報委員の方々がこのような研修を無駄にすることなく真摯に取り組み改善を重ねてこられたことに、敬意を表したい思います。

最後に、これまでの議員研修でも感じたことですが、今回も質疑応答がなかったので、もう少し研修時間を延ばしてでも質疑応答の時間をとっていただければと思います。講師の方の時間配分にもよるとは思いますが、講演内容になかった点で聞きたいことがある人も多いと思うので、よろしく願いいたします。

【松林 敏 議員】

研修は二部構成で、前半は議会だよりならではの誌面作りのテクニックを学びました。まずは、編集方針・理念をきっちり決めましょうという内容があり、長与町の議会だよりについてそういったものは無いようなので、委員会で作成していくべきものだと感じました。次に印象に残ったのはデザインの原理原則というところで、まとめる、揃える、強調する、繰り返すの4つの基本原則を紹介し、実際にいろんな資料を見やすくするテクニックの紹介がありました。また、書体・フォントや、色相環といった、今まで意識してなかったものも紹介され、大変勉強になりました。

後半は各町の議会だよりのクリニックということで、アドバイスを受けました。長与町議会だよりは、他自治体と比べて、比較的指摘事項は少なかったですが、その分細かいところまでチェックをしていただきました。

広報委員会になってすぐにこの研修を受けることができたらよかったなと感じました。

【安部 都 議員】

今回、自治体広報広聴研究所代表理事 広報アドバイザー・専門統計調査士 公共政策学博士である金井 茂樹氏に「議会広報の基本と編集技術」広報広聴理論と読者の行動・意識のご講演と広報紙クリニックのアドバイスなどご教授頂いた。第1部で、議会広報づくりのフレームワーク、広報公聴の理論、編集方針、読者の行動と意識、デザインの原理原則、企画、編集を教わり、第2部に議会広報クリニックをそれぞれの自治体に各15分ほどアドバイスを頂戴し最後にまとめて締めくくりとなった。その中で、読者目線に立ち、中学生が理解できる議論の中身を編集する等努める。簡潔な表現、市民の声、市民の参加の記事を掲載するよう努めるなど編集を心がけることは、一番大事だと認識できた。本町の議会だよりも色の統一、コントラスト、線や文字の整列など基本原則

に基づいてのアドバイスを受けてとても参考になった。最後に、住民に手に取ってもらえる表紙づくり、ページを開きたい紙面づくり、見出しリード文を読んでもらえるような新しい感覚と斬新な議会だよりを今後は作るように心がけていきたい。とてもわかりやすいご講義をいただき感謝したい。

【金子 恵 議員】

議会だより作成に当たり、フレームワーク、特に PDCA は重要であり、そのサイクルに従い、次につながることの重要性を学んだ。

- | | | | | | | | |
|----|---------------|---|---------------|---|-------------------|---|----------|
| 1. | 企画 | ⇒ | 編集 | ⇒ | 評価 | ⇒ | 改善 |
| | ↓ | | ↓ | | ↓ | | ↓ |
| | 何を伝えるか。
選択 | | 表現方法
レイアウト | | 議会広報モニター
クリニック | | 次号以降に繋げる |
- 編集方針の確立
 - 読者、ファスト思考
 - わかりやすく、読みやすいレイアウト + 美しさ
 - ひとつの記事に1枚の写真 ⇒ 「読む」から「見る」紙面づくり

議会だより作成に当たり、まず、住民の立場に視線を置き編集していくことを心掛け、中身に誘導する力ある表紙、見出しなど、できることを実践し、委員会内協議を強化することで、次回の議会だより作成に生かしていきたい。

【堤 理志 議員】

議会広報が果たす役割、議会広報作りの PDCA、二元代表における広報と広聴、議会広報広聴理論、企画編集技術、広報広聴の概念、広報広聴の展開と目的。など、基本的な考え方、編集方針のあり方、美しくデザインされた紙面作りなど、専門家の視点ならではの説明であった。

編集方針の意義、理念と編集方針、各自治体議会の文例等を使い、読者目線に立つことや、中学生が理解できる議論の中身に編集することなどの話であった。また、見出しの立て方、違和感のないフォントを使用することなども大いに取り入れるべき。

読者の心理として、自分に関係ないと感じた瞬間に読まないということや、文章が分かりづらい、読みづらいものは読んでもらえない「読み手側の心理」の説明をいただいた。これらを意識することで、どうすれば読んでいただけるかを考える大きな参考となった。併せて、見出しの文言や、リード文がなぜ必要なのかということを理解することができた。

デザインの基本として、近接・整列・強調・反復の4つの基本原則を意識することで、読者が手に取り読んでいただける紙面づくりにつながるものと考えた。

余白、いわゆるホワイトスペースが窮屈感を払拭しコントラスト＝強調になるということ、どのようにホワイトスペースを作るかなどの説明、また、色使いについての基本的な考え方についての説明もあった。

全体的に技術面、読み手側の心理を捉えるなど今後の編集の参考になる研修であった。

【吉岡 清彦 議員】

(1) 議会報づくりのPDCA

何を伝えるのか、どのように表現するのか、読者評価、次回以降の改善をもって、議会報

の品質改善を行う。

(2) 広報・広聴の概念

一定の理念にしたがいながら、価値の創造と循環によって、自治体の市民との関係を、戦略的かつ継続的に構築・維持することを目的とする活動。

(3) 編集方針

住民の思い、住民の事をいかに紙面に活かすかを考える。

(4) 読者の行動と意識

文章が「わかりづらい」「読みづらい」のであれば読んでもらえないので、読みやすい内容にすべき。

(5) デザインの原理原則

4つの基本原則

まとめる 揃える 強調する 繰り返す ことが大事である。

6. 欠 席

西田 健 議員 安藤 克彦 議員